

責任者	理工学部長	作成部局	理工学部
-----	-------	------	------

### 2021年度に向けた教育研究目標

#### 【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

幅広い視野と柔軟な思考力をもち、自然科学・科学技術の知識を生かして社会貢献できる人材の育成。

(狙い内容)

自然科学・科学技術の幅広い分野にわたって基礎知識と能力を修得し、多様な教養教育により人格形成に努めるとともに広い視野を養い、社会のいろいろな分野で活躍することができる人材を育成する。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

理工学部の学生が、在学中から積極的にキャンパス外で活動し、社会・企業における実践的な演習を通じて実社会を学び、様々な分野で社会から求められるような人材となって卒業してゆくようにする。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

#### 2. 達成度評価

評価指標	評価尺度	変更有無
実社会を学び、幅広い視野と柔軟な思考力を育むハンズオンラーニングプログラムへの参加学生数	A : 200名以上 B : 100~200名 C : 50~100名 D : 50名未満	(有)無
<変更時記入欄>	<変更時記入欄> A : 250名以上 B : 200~250名 C : 150~200名 D : 150名未満	

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D (0名)	D	D	C	B	B	A	(有)無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度：A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C	B	B	B	A	
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 122名		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 180名					

#### 【2016年度の進捗状況について】

2016年度はハンズオンラーニングプログラムとして新たに「地球環境科学実験」が開講し52名が受講した。さらに今年度から「インターンシップ実習」の受講者大幅増を目指し、ガイダンスでインターンシップ単位認定制度の周知を開始するなど、概ね計画通りに進んでいると言える。

<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

以前から既の実施しているいくつかの科目が2015年度に正式にハンズオン科目として認定されたので、その終了者数を加えたことにより以前の評価尺度では計画策定時から評価Bになってしまうため、より高い評価尺度に修正した。

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ (はい)・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由：
- ②今後必要な取組み：

#### <評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に推移しており、評価できます。(A)
- ・ ハンズオンラーニングプログラムについて、順調に進展しています。(E)
- ・ ハンズオンラーニング科目に関する目標達成に向けて、今後着実な取組みが進められることを期待します。(F)
- ・ 2021年度のめざす姿は明確ですが、PBL型演習科目の定義を明確にし、評価の際に一定の評価が出されることが期待されます。(G)
- ・ ハンズオンラーニングプログラムへの参加学生の増加という目標は適切です。(H)
- ・ 評価尺度を上方修正している点が評価できます。さらに充実が図られることが期待されます。(I)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

実践的・体験的教育による実社会の課題解決のための応用力養成。

(狙い内容)

実験科目、演習科目、卒業研究を重視し、これらの科目を通して、自然科学・科学技術の最新の研究に携わる機会を持ち、自然科学の真理を探究していくことの楽しさと感動を身近に体験するとともに、自然科学の知識や能力を社会に活かしていくための応用的能力を養う。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

理工学部学生がキャンパス内での学びのみで卒業するのではなく、実社会との関わりの中で、新たな知識を獲得し、問題を発見し、学んだ成果を発信することができるようにする。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	実社会の課題解決のための応用力が養成できたかの指標として卒業時にアンケート調査を実施し、6年後には学習満足度が80%以上になるようにする。(2015年度:未実施)	評価尺度	A:80%以上 B:60%~80% C:40%~60% D:40%未満	変更有無
	<変更時記入欄> ※上記の評価指標を変更する場合は、こちらに変更内容をご記入ください。		<変更時記入欄> A: B: C: D:	有(無)

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	C	C	B	B	B	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 未実施		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 卒業時アンケート調査を実施する。					

【2016年度の進捗状況について】 ←

卒業時アンケート調査の調査内容を検討し、アンケートを実施する。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2015年度(計画策定時)の目標値を「(未実施)」から「D」に変更した。(評価尺度Dに未実施を含むように変更)

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・着実に進んでおり、大変評価できます。(A)
- ・卒業時アンケートについて実施後の分析が期待されます。同時に、学生の調査疲れを避けるためにも、キャリアセンターや高等教育推進センターによる同種調査との連携も望まれます。(C)
- ・実社会の課題解決のための応用力が養成できたかの満足度は、順調に進展しています。(E)
- ・本年度実施する卒業時アンケート調査の結果が2017年度の取組みに活かされることを期待します。(F)
- ・実践的・体験的教育による実社会の課題解決のための応用力は各自の体験等により異なるものと考えられるので、卒業時アンケートにより学習満足度を測定することは適切と思われます。(H)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)

自然科学・科学技術の知識を生かして、国際的に活躍できる人材の育成。

(狙い内容)

英語の能力は、自然科学・科学技術を学ぶ上で必須の要件であり、研究の成果を世界に向けて発信していくためにも不可欠である。英語に強い理系の人材育成を目指し、英語教育に力を入れる。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

理系におけるESP(English for Specific Purpose)教育を行い、学生が各自の専門分野について英語で表現することができ、他国の同じ専門分野の学生とのコミュニケーションをとれることを目指す。このコミュニケーションとは、通信を通じてやり取りをする以外に、国際学会での発表、情報の交換会、また専門雑誌を通じて論文を記載するという専門分野におけるあらゆる相互行為を示す。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	「科学技術英語」・「千川集中英語実習」、SGU交流研修制度に参加した学生らにアンケートを取り、成果・満足度(項目「積極的に取り組んだか」「授業目的に即した成果が得られたか」「授業に満足したか」等)を測る。	評価尺度	A : 80%以上 B : 60%~80% C : 40%~60% D : 40%未満	変更有無
	<変更時記入欄> 「科学技術英語」・「千川集中英語実習」、その他の関連科目・研修等に参加した学生らにアンケートを取り、成果・満足度(項目「積極的に取り組んだか」「授業目的に即した成果が得られたか」「授業に満足したか」等)を測る。		<変更時記入欄> A : B : C : D : 40%未満(または未実施)	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	C	C	B	B	B	A	無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 未実施		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 40%					

【2016年度の進捗状況について】 ←

9月末に評価指標となるアンケートを当該実習に参加した学生に実施するので2016年度末には評価が実施できる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

- ・評価指標について、英語教室主導のSGU関連研修制度に限らず、科学技術英語に関連した科目の設定を検討しているため「その他の関連科目・研修等」に文言を変更する。
- ・評価尺度Dに未実施を含むように変更。

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→  はい  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結> 2017年1月27日公示**

- ・達成度の評価指標について、より幅広い対象にアンケートを実施する方法も検討できます。(D)
- ・英語教育の取組は、順調に進展しています。(E)
- ・9月末に実施したアンケート結果からどのような課題を抽出し今後活かされるのか、今後の帳票に反映されることを期待します。(F)
- ・目標設定が具体的で数値目標も妥当であり、順調に進展していると見られ、評価できます。(G)
- ・ESP教育についての目標は具体的であり、また、TOEICによる評価などを含め、それについての各種評価指標は適切です。(H)